



未来を夢見て

2020/12/7 No. 50

主体的で・対話的で「深い学び」

12月3日(木)3校時、楽しみにしていた5年3組、青砥知恵子先生の授業を参観させていただきました。楽しみにしていたことには理由があって、今年度富谷市の富ヶ丘小学校から転任された青砥先生が、どのように本校の研究を受け止め、受け入れてきたかを参観させていただくことができるからです。今年度転任された先生方の授業は、6年生の西條先生、2年生の千葉先生に続いて3人目です。お二人とも見事に本校の研究をご自分のものにされていましたが、お二人よりも(やや)経験豊富な青砥先生がどのように授業を創るか、ということには自然と期待が高まりました。



授業は序盤から、青砥先生と子供たちが言葉や叙述にこだわって**対話的**に進んでいきます。落ち着いた雰囲気の中でも、青砥先生の持ち味の明るさもあって子供たちは**開放的**に思ったことをつぶやき、前のノートをめくったり、ファイルを開いたりしながら、**主体的**に学んでいきます。日々の学級経営、そして授業づくりで青砥先生が何を大事にされてきたのか、子供たちの姿の中から伝わってくる心地のよい時間が続きました。

事後検討会でも、参観された先生方から子供の発言やノートを手がかりとした**子どもの事実**を手掛かりに、本作品における情景描写や大造じいさんの人物像、という本質的なテーマへと自然に話が及んでいきました。

一般的に、授業の事後検討会では、「指導の手立て」の検討に終始することが多いのですが、本校の先生方は、このように子どもの事実を丁寧に見取り、扱うので、自然に教材(文)に話が及び、教材解釈が**深ま**っていくことに気がきました。ここに、文学作品を研究に掲げ、昨年度まで武山前校長先生と共に真摯に国語科の授業づくりに取り組んできた先生方の真骨頂が表れていると感じました。



今年度から小学校では学習指導要領が改訂になり、授業では「主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)」がキーワードになりました。事前に授業を見せていただいた後藤愛恵先生と岩佐美由紀先生の授業にも共通して、5年生の子供たちはどの学級でも対話的な雰囲気の中で主体的に学んでいます。また、深い学びは教師自身に置き換えるとわかりやすいなあ、と思いました。

青砥先生は11月に2週間の教育実習を終えたばかりで、大変ハードな日程の中での授業提供であったと思います。本当にお疲れ様でした。

12月4日(金)、事後の授業を5年4組渡辺優先生が提案してくださいました。この日、私もどうしても午後にお休みを頂かなくてはならず、職員室に挨拶しているとき、追うような目で見ていた優先生の視線が気になったのですが・・・。

優先生、4組のお子さんたち、さすがにしっかり育ててきましたね。お疲れ様でした。

(文責：手代木)